

推進の方向性 1 個性とライフステージに合わせた学ぶ機会の充実

多様な生活様式、個性の尊重など、個人の能力を生かす現代の社会は、個々の学びがより重要となっており、多様なニーズに対応するため、新たな知識や技術の習得といった生涯学習が求められています。

また、趣味の時間や余暇の活用といった、人生をより豊かにするための学びの環境に対する需要も高まってきています。

そのため、一人一人の望む学びや、ライフステージ※5に応じた学習機会の整備など、様々なニーズに応えられる生涯学習の選択肢を用意する必要があります。

推進の方向性		施策の展開	
1	個性とライフステージに合わせた学ぶ機会の充実	(1)	子どもの健やかな発達と学びの支援
		(2)	青少年の豊かな心を育む学びの支援
		(3)	成人の学びの継続・学びなおしの支援
		(4)	長寿社会のニーズに合わせた学びの支援
		(5)	障がいのあるなしに関わらず心豊かに暮らすための学びの支援
		(6)	共生社会の実現に向けた、すべての市民への学びの支援

(1) 子どもの健やかな発達と学びの支援

生きる力を身につけるためには、子どもたちが主体的に学ぶことが必要不可欠です。

そのためには、0歳から学ぶことに親しむ環境づくりや、子育てする親の教育力と学びに対する意識の向上はもちろん、虐待などが起きないように地域における子育て意識の醸成が大切になります。そこで、親同士が交流できる学びの場の提供や、気軽に相談ができる場の整備を進め、親子で学び成長できる環境の整備に努めます。



《セカンドブック事業》

持続的な子どもの読書活動を推進するため、小学1年生に本を贈る事業

具体的な取組

- ① 家庭の教育力の向上のための相談体制や学習機会の充実
- ② 0歳から学ぶことに親しみ「生きる力」や「思いやりの心」を育む環境づくり
- ③ 学校・家庭・地域が一体となった子どもの読書環境づくり

(2) 青少年の豊かな心を育む学びの支援

学びの中心が学校となる青少年期だが、次世代の育成や社会での様々な能力の獲得はもちろん、不登校や引きこもりなど、この世代に特徴的な課題解決のため、地域と学校の連携が重要になると考えられます。

キャリア教育※6やボランティア活動、地域活動など、様々な体験を通して、自立性や社会性の育成を進め、社会参加、社会貢献への意欲向上を促し、社会人として成長できる学びの環境づくりに努めます。



《こども研修事業》

姉妹都市などへ訪問し、異年齢による集団生活を通じ、協調性・自主性・社会性を身につける研修事業

具体的な取組

- ④ 学校、企業、団体との連携によるキャリア教育など、様々な学習活動の充実
- ⑤ 青少年活動のリーダー養成、団体活動、異年齢交流の促進
- ⑥ 公共施設の積極的な活用による学習機会の充実

(3) 成人の学びの継続・学びなおしの支援

社会の中核として活躍する世代にとって、仕事や趣味、生活を充実させる重要な要素として、学習機会の確保は欠かすことができません。

特に、仕事においてはグローバル化やICT技術※7の発達などにより、より高度な知識や技術を身につけた人材が求められています。

そのため、幅広い教養を身につけることはもちろん、スキルアップや資格取得のための学習の機会確保など、時代の変化に対応できる柔軟な思考や発想ができる力を養うため、学び続ける人の支援に努めます。

具体的な取組

- ⑦ ライフスタイルに合わせた学習機会の充実
- ⑧ スキルアップや転職、学びなおしの学習機会の提供
- ⑨ 市民ニーズに合わせた、参加しやすい講座・教室や出前講座の充実

(4) 長寿社会のニーズに合わせた学びの支援

高齢者が、仕事を離れてからも生きがいを持って社会と関わり、健康で充実した生活を送るため、継続した学びや学びなおしに加え、新たな挑戦も必要とされています。

そのため、高齢者のニーズに対応した様々な学習機会の提供に努めます。

また、多様な経験に基づく知識や技能を社会に還元する機会を増やすことで、高齢者が社会的に孤立することを防ぎ、さらに次世代の育成につなげる仕組みづくりを進めます。

具体的な取組

- ⑩ 長生大学をはじめとした、健康や生きがいを考える学習機会の充実
- ⑪ 学びなおしや再チャレンジの充実・支援

(5) 障がいのあるなしに関わらず心豊かに暮らすための学びの支援

障がいのあるなしに関わらず、すべての人が共に学ぶことができる社会を実現するためには、お互いを理解し相手の立場に立った行動力が求められます。

そのためには、幅広い教養を身につけるための学習や交流の場を設け、発達障がいなど障がいについて最新の知識を得ることはもちろん、想像力や思いやり持つ心を育てる必要があります。相互理解を促進する学びと、心豊かに暮らせる環境の整備を進めます。



事業紹介

《あいサポーター運動》

様々な障がいの特性や障がいある方へ必要な配慮を理解する運動

具体的な取組

- ⑫ 社会で能力を発揮できる知識・技能を育成する学習の充実と支援
- ⑬ 心豊かな生活の充実につながる学習機会・交流の場の充実

(6) 共生社会の実現に向けた、すべての市民への学びの支援

地域の課題に対応し、解決する能力を備えた人材育成を進めることは、郷土の将来的な発展を支えるためには大変重要なことです。防災教育など地域課題に対応する能力を身につけるために、生涯学習の果たす役割は非常に大きくなっています。

特に現代では、地域においても、人々の価値観が多様化するだけでなく、男女平等参画や国際化の進展など、より複雑な社会構造に対応する人材が求められています。そのため、こうしたニーズに応える生涯学習の機会の充実を進めます。

具体的な取組

- ⑭ 地域課題解決のためのニーズに応える各種学習機会の提供
- ⑮ 性の多様性^{※8}やジェンダーギャップ^{※9}に関する学習機会の充実
- ⑯ 国際理解・相互理解の推進に向けた取り組みの支援

語句解説

※5 ライフステージ：人の一生を乳幼児期（0歳から6歳（就学前）まで）、青少年期（就学時から18歳までを想定）、成人期（満18歳から65歳未満を想定）、高齢期（満65歳以上を想定）などに分けたそれぞれの段階（生涯の各期）。

※6 キャリア教育：一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育（子ども・若者がキャリアを形成していくために、必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけ）

※7 ICT：情報や通信に関する技術の総称。

※8 性の多様性：性には、「身体の性」「性自認」「性的指向」「性別表現」など、様々な側面があり、全ての人に関わるものです。従来の男性か女性かの二者択一で性別を規定したり、異性愛のみが正しいかのような見方をするのではなく「多様なセクシャリティのあり方を考えていこう」という概念

※9 ジェンダーギャップ：男女の違いにより生じる格差。